

内服インシュリンについて 日本のパートナーを探している

インシュリンは健康の人体の中で血糖の含有量を調節するホルモン(Hormone)で、糖尿病を治療する基本的な薬物。現代人の生活方式と飲食構造により、糖尿病の発病率は持続的に上昇している。現在、世界中の糖尿病患者は1.5億に上り、中国は4000万近くの患者もいる。そして治療費用も膨張。アメリカでは糖尿病の発病率は6%を超え、その医療費用は1300億米ドルに上がった。中国での糖尿病の発病率も3%を超え、年間医療費用は1700億人民元余りだ。

インシュリンは20世紀20年代から使用し始めた薬物として、その治療効果と安全性は既に認められた。しかし、既存のインシュリン製品はすべて注射型で、患者が長期的に注射され、しかも多くの患者は1日に数回注射しなければならないため、その苦痛と不便はいうまでもない。もし飲み薬型(Drug Delivery Method Breakthrough)を開発できたら、大きなビジネスチャンスになるだろう。

多くの大手製薬会社 PHIZER、LILLY などは注射型インシュリンの代替品の研究開発において巨額投資をしているが、内服インシュリン(oral insulin)に関する研究は難しく、しかも研究開発のコストが高い。また、新薬を申請して許可を得るまでは時間もかかる。

内服インシュリンの研究開発については、中国政府が80年代から投資してきたプロジェクトだ。多数の医薬品研究機関は20年間近くの研究開発を経て、ようやく突破的な進展が見られた。それは、特許のカプセル技術(Method of Production of Insulin-containing Oil-based Preparation for Oral Administration)で、インシュリンを内服するときに胃腸のジアスターゼに破壊されやすい(Enzyme Digestion)問題を解決しただけではなく、腸がインシュリンを吸収する(Insulin Absorption through Gastro-intestine Tract into Blood)有効性も改善し、相当な濃度のインシュリンが血液に浸透できる。

現在は既に内服インシュリンの第2相臨床試験を終了した。受験者は薬に対する良好な反応(Safety and Tolerability)し、低血糖(Hypoglycemia)などの副作用(Drug Related Side Effects)は一人も起こらなかった。即ち、調合剤の技術を応用した内服インシュリンは胃腸(Gastro-intestine Tract)を經由して血液に入る成功し、血糖(a Drop in Blood Sugar)を下げ、糖化ヘモグロビンに対する作用があり、ノルマの改善幅と皮下注射インシュリンの対比組と似ている。しかも人体に対して優れた安全性を持つ。また、中国特許管理局から内服インシュリン調合剤技術の特許を取った。

今は、日本をはじめ、海外のパートナーを探している。ライセンスの譲渡により、世界中で内服インシュリンの販売を展開したいという。

詳しい資料請求のお問合せ先：

上海市生物医薬産業協会日本駐在事務所

住所：〒194-0004 東京都町田市鶴間182-9 町田事務所

TEL: 042-799-2856

E-mail: support@chinainfo-jp.com

<http://www.chinainfo-jp.com/>